

☆ハバロフスク基本情報

- ・ロシア極東地方の主要都市で、ハバロフスク地方の中心都市。
極東連邦管区の本部も置かれている。
- ・人口約59万人。
- ・首都のモスクワからは8,523km、7時間の時差がある。中国領からは30km。
ウスリー川とアムール川の合流点に位置している。
- ・産業:機械工業や金属工業、木材業が発達している。



●中国との国境近くの村の風景



●展望台より中国側の建物を望む

☆ハバロフスクの気候

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高気温(°C)	0.6	6.3	17	24.8	31.5	32.8	35.7	35.6	29.8	25.8	15.5	6.6
最低気温(°C)	-41.4	-35.1	-28.9	-15.1	-3.1	2.2	6.8	4.9	-3.3	-15.6	-27.4	-36.7
降水量(mm)	14	11	22	43	62	74	133	154	79	50	25	17

☆ハバロフスクの歴史概略

- ・1858年5月31日ロシア帝国国境警備基地がウスリー川右岸に建設された日を創立日としている。
- ・1649年、この地を探検したエロフェイ・ハバロフの名にちなんでハバロフカと名付けられた。
- ・1860年ロシア帝国と清国の間で結ばれた愛琿条約により正式にアムール川東岸がロシア帝国領となった。
- ・ロシア革命が勃発すると、日本人居留民保護を名目とし1918年日本軍によるシベリア出兵が開始される。反革命軍の白衛軍が極東地域を制圧。1920年には極東共和国が成立。
1922年に日本軍が撤退するとソ連の支配下に入り、そのまま現在に至る。
- ・第二次世界大戦後、旧満州から日本人抑留者が強制的に建築に従事させられた際に建設された建物は現在でも沢山残っている。



●第二次大戦後の市内の建物



●日本人抑留者慰霊のためのモニュメント

☆ハバロフスクの教育・スポーツ

・極東地域の中心都市として高等教育機関が集中する。主なものは以下の通り。

- ①太平洋国立大学(以前のハバロフスク国立理工大学)
- ②極東国立人文大学(以前のハバロフスク国立教育学院)
- ③極東国立医科大学
- ④ハバロフスク国立経済法律アカデミー
- ⑤極東国立交通大学
- ⑥極東国立公務員大学
- ⑦極東国立体育大学
- ⑧ハバロフスク国立芸術文化大学

・プロスポーツチームはFC SKA-エネルギー・ハバロフスク(サッカー)がある。

☆ハバロフスクの見どころ

・ハバロフスクのムラヴィヨフ・アムールスキー通り(メインストリート)

レーニン広場から教会広場(旧コムソモールスク広場)まで約2km。古い建物を残した欧州風の街並みはカフェ、食料品店、デパート、映画館などそぞろ歩きを楽しむ人々で賑わっている。

・ハバロフスクのアムール川沿いの散策

郷土史博物館からウスペンスキー教会へ。アムールスキー公園、客船ターミナル、川岸通り、展望台に登るのが一般的な散策コース。

★考古学博物館:20万年前の歴史、新石器時代、渤海国、女真国時代の歴史や文化を紹介。

★郷土史博物館

1階は自然展示室(マンモスの牙、チョウザメ、海牛、トラなど動植物)

2階は北方少数民族(衣裳、生活、宗教上の用品など)

新館は極東開拓の歴史、ロシア革命など。

★極東軍管区歴史博物館：探険開拓時の歴史、内戦時の日本軍の軍資料など。

・ハバロフスクのアムール川遊覧

世界第8位の大きさのアムール川。ハバロフスク市のシンボル。全長約4,400km。川幅はハバロフスク付近で約1.5～2km。1時間コースはアムール大橋まで約4kmを一周します。

・ハバロフスクのロシア正教会

1868年築の聖インナケンティ寺院、ウスペンスキー大聖堂、スパソ・プレオブラジェンスキー大聖堂の3つの教会が見どころとして有名。

・ハバロフスクの動物園

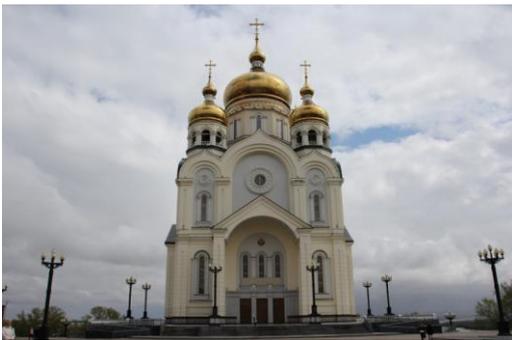
北へ約20kmのアムール川沿いのピクニック・ゾーン「クローネジ」の中にある。トラやオオカミ、ヒグマ、白クマ、トナカイ、ノロジカ、キツネ、オオヤマネコなど約35種類の動物、鳥類がいる。



●アムール川展望台



●郷土史博物館



●スパソ・プレオブラジェンスキー大聖堂



●レーニン広場の噴水

★ハバロフスク旅行についてのお問い合わせは・・・

(株)ロシア旅行社

担当：加藤 聡

電話：03-3238-9101

ファクス：03-3238-9110

e-mail:indivi@russia.co.jp